NPO 法人日本ファイバーリサイクル連帯協議会
〒260-0001 千葉市中央区都町 3-14-10
TEL/FAX:043-234-1206
E-mail jfsa@f3.dion.ne.jp
URL https://jfsa.jpn.org

会報61号 2023年5月

PJC のカユーム氏とアランヤプラテート（タイ）の倉庫に到着した JFSA の第 81 回コンテナ

◆◇JFSA ホームページ
Facebook ページもごらんください◇◆

JFSA HP　JFSA Facebook　JFSA インスタグラム

## 《衣類等をタイへ輸出する理由と経緯》

### ① 1995 年設立当初からの課題

JFSA は皆さんから寄せられた衣類等の約 80％をパキスタンへ輸出し、現地の事業グループが販売した収益をアル・カイールアカデミーの学校の運営費としてきました。これまで JFSA は、パキスタンで価格の高い毛布やタオル、ハンカチ、下着などを含めて寄せていただくことで販売収益を引き上げる努力を重ねてきましたが、女性用衣類や冬物衣類等はパキスタンでの収益が低いことが課題でした。

### ② コロナ禍の影響

2020 年に始まったコロナ禍により、世界中で輸出用コンテナの不足や海上運賃の高騰が起こりました。特に JFSA の輸出先であるパキスタンへの海上運賃は、以前の６倍以上という状況が続きました。

### ③ パキスタン政府の輸入規制

パキスタンでは外貨準備高の減少が続き、政府は外貨の流出を抑えるために輸入に対する厳しい制限をかけ、中古衣類等の輸入関税は以前の２倍以上となりました。海上運賃や関税等の費用を合わせると、現地で販売利益を生むことは不可能であると判断せざるを得ません。

### ④ タイの古着国際マーケットの存在

調査（※）によりタイには日本からも多くの古着が輸入されており、国内消費だけでなく周辺各国への中継地としての役割も担っていることが分かりました。

（※）これまでのタイ調査派遣：2016 年７月、2022 年９月

# 【タイ派遣報告】

依知川　守

■派遣事務局：田邊　航太郎、依知川　守
ＰＪカンパニー代表アブドゥル・カユーム氏と現地で合流
■派遣期間：２０２３年３月５日(日)～３月14日(火)
■派遣目的に沿った報告

### ①ＪＦＳＡが輸出したコンテナの現地到着確認

バンコクから東へ約２００km、カンボジアとの国境の街アランヤプラテートにはロンクルア市場という古着を中心とした巨大なマーケットがあります。ＷＡＳ(※)のアリ氏から市場近くの自社の倉庫をＪＦＳＡの荷物の保管・卸販売の場所として提供する申し出があり、この倉庫での荷下ろしを決めました。３月11日午後、コンテナが無事倉庫に到着。カンボジア人労働者７～８名の手で約２時間かけて荷下ろし作業は完了しました。

(※)ＷＡＳインターナショナル：タイで１９９２年に創業された古着販売業者。代表はパキスタン人のアリ・シャー氏。従業員数約20名。アリ氏は、ＰＪカンパニーのカユーム氏と旧知の中です。ＰＪカンパニーとＪＦＳＡによる古着販売事業を通したアル・カイールアカデミーの教育支援活動にも関心を寄せていて、ＪＦＳＡにも来たことがあります。「私はタイで事業を行な

うために必要な会社や場所、従業員、お金、車など様々な環境を作ってきました。皆さんとの関わりは事業という側面もありますが、この事業を通してパキスタンの貧しい人を助けることができると考えるからこそ、私はあなたたちに協力したいのです」。と、アリ氏はその気持ちを話してくれました。

JFSA 第 80 回コンテナが無事到着した

**②ＰＪカンパニーによる販売に協力する。現地の需要を理解し、ＪＦＳＡの仕分け方法の変更や回収品目の検討へ繋げる**

**（ＪＦＳＡは現時点でこれまでの回収品目を変更することはせず、タイでの調査を継続し、今年度中に判断をする考えです）**

アリ氏がコンテナ到着を地元業者へ伝えたため、荷下ろし作業の最中から10数名の業者が倉庫を訪れました。バッグやジーンズなどはその場でベールを開封して品質が確認され、それぞれ全量が購入されました（※）。

その場でスマホのインターネットバンキングで決済

これまでパキスタンで販売が困難だった女性物は、タイでは特に夏物の需要があり、業者からはＪＦＳＡの品物は高品質を意味する「Ａグレード」と言われました。ただしスカートはタイでも販売が厳しいそうです。また男性物も特に夏物は需要が高いです。

一方、セーターやジャケットなどの冬物は11～1月が販売シーズンとのことで今後時間をかけて販売することになります。また現時点で売れずに在庫となっているのは主にパキスタンでは需要のある品目です。ＰＪカンパニーはＷＡＳとも相談の上で、輸入関税の緩和など環境が整えばタイからパキスタンへ輸出して販売することも検討しています。

※コンテナの半分程が売れた段階で粗利益は約１９０万円です。

10 年程前からの付き合いというカンボジア人のティア氏。最初はアリ氏から少量仕入れて販売し、今では事業を大きくしたそうだ。彼の紹介で倉庫を訪れた業者も数名いた。

ベルトを買った夫婦

買ったバッグの包みをサイドカー付きのバイクで運ぶ。荷下ろしも荷運びもカンボジア人労働者の仕事だ

## ③タイにおける古着マーケットの調査

タイでは実店舗やフリマ形式などの形で古着が販売されており、中でも日本からの古着を多く目にしました。パタヴィコーン・マーケットは日本の大型フリマのような雰囲気で、小売・卸売ともに行なわれていました。１着ごとハンガーにかけられ種類別に陳列されている店、山になっている中から選ぶ店、状態も価格も実に様々です。このようなマーケットで販売されているのは古着やバッグが中心ですが、一部でアクセサリーや腕時計、帽子、食器なども売られていました。またバンコクには日本のリサイクルショップも出店しており、店内には安価な古着だけではなく、ショーケースはブランド品が並び日本と同様の価格で売られていました。

タイで起業され、日本のリサイクルショップから古着を仕入れて現地業者へ卸販売している方のお話しでは、タイでは日本古着の需要があり、特にユニクロは人気が高いとのことでした。

状態やデザインなどで選んだ古着を1着 1,000 円～1,500 円位で売る店

ハンガーにかけて 1 着約 200 円で売る店

## ④タイでの販売事業のお互いの役割や事業収益の扱いについて相談する

今回のタイ輸出に先立ち、ＰＪカンパニー、ＷＡＳ、ＪＦＳＡの３者はオンラインで話し合い、ＷＡＳ協力の元、タイで販売を行なうことを合意、実行しました。

今回のコンテナの受け入れから販売(倉庫の提供も含め)、マーケットの調査等にはＷＡＳに全面的に協力いただいています。今後も３者の協力体制は維持しつつ、将来的にはＰＪカンパニーとして事業へより積極的に参画することを目指しています。

現時点での売上約２８０万円から、日本、タイ双方の経費約90万円を差し引いた粗利益約１９０万円をＰＪカンパニー、ＷＡＳ、ＪＦＳＡで分配すること

その場でベールを開封して量り売りする店。売値は最初に選んで購入する人がいちばん高く、販売が進むにつれ下がるそうだ。

に３者は合意しました。またＰＪカンパニーは利益の３割をアル・カイールへの支援金にしたいと考えています。

## タイ派遣を振り返って

パキスタンでは、ＪＦＳＡから輸出された品物がアフガニスタンやイラン、その他の国へ販売されているという事を販売先業者から聞いてきましたが、具体的な行方の様子を知る事は困難でした。

一方タイでは荷下ろし直後から各業者との交渉が始まり、彼らの言葉からはお客さんまで含めた「古着の行方」との直接的な繋がりを実感できます。そしてこの繋がりは、販売事業における可能性も課題もより鮮明にするでしょう。課題解決のための具体的な取り組みも促されます。

パキスタンの人々とＪＦＳＡが協力して継続してきた連帯事業は、タイでのＷＡＳとの出会いと協力により、その連帯の輪を広げようとしています。引き続き皆さんに古着の行方の様子を共有し、衣類等の販売事業を通してアル・カイールアカデミーの運営を支援する力を大きくすることを目指します。

**「　チャエ　ケ　サート　」の意味は・・・**
**パキスタンの公用語、ウルドゥ語で**
**“チャエ”は「温かいミルクティー（チャイ）」、“ケ　サート”は「一緒に」、**
**「　チャイと一緒に　」という意味になります。**
**パキスタンではチャイを飲みながら賑やかにおしゃべりを楽しみます。**

### ～タイのハラル食堂にて～

タイ料理というと日本ではトムヤムクンやグリーンカレー、パッタイなどが有名ですが、実は北部、東北部、中央部、南部の４つの地方で様々な料理があるそうです。

現地ではパキスタン人のアリ氏の案内でハラル（ムスリムが食べる事を許されている）のインド系カレーレストランか、タイ料理の食堂へ行くことが多く、どちらもとても美味しいです。

特にタイ食堂の牛肉がたっぷり入ったスープとご飯のセットはクセになります。地域により異なるそうですが、タイには人口の５％前後のイスラム教徒が暮らしていると言われています。

ズボンの販売が一段落して喜ぶアリ氏

ハラル食堂

牛肉スープとごはんセット

デコトラとドライバー　積み荷は“ブーサ”と呼ばれる家畜の飼料

カチラクンデイ　少年の仕事は燃やしたゴミから有価物を集めること

# フォトギャラリー

## ウターナー

## ～背負う～

洪水被災地　テントに飲料水を運ぶ少女

ダドウの農村　家畜の餌にする刈枝を家に運ぶ少年

# 第 81 回コンテナ送り出し報告

国内事業担当事務局　入江　賢治

2023 年４月６日積み込み
積み込み重量：25,605KG
横浜港出港：４月 14 日　⇒　タイ・ラッカバン港到着：４月 24 日

タイに向けた2回目のコンテナ送り出しを行いました。積み込みには会員団体「大地を守る会」「パルシステム千葉」、協力団体「ファイバーリサイクル四街道」や、選別協力団体「千葉ダルク」「オアシス」「あみあみ」、軒先市（千葉センターにて毎月第二土曜日開催）に参加している「あうん」「虹と風のファーム」の方など、総勢 33 名のボランティアの協力がありました。

コンテナは翌日に横浜港を出港するタイトなスケジュールだったため、13 時を作業終了目標として段取りを組み、無事に終えることができました。以前は 16 時頃までかかりましたが、継続して参加しているボランティアの方々が、ながれ作業のポジションごとに旗振り役を担うことで全体がスムーズに進み、時間短縮につながりました。

また、ベール（古着を圧縮した塊）を作る圧縮・梱包担当スタッフの技術が向上し、形がコンパクト化されたことで、積み込み重量として過去最高記録となりました。結果的にコンテナは横浜港が混雑していたために本船に間に合いませんでしたが、無事に1週間後に出港となりました。

前回は初めてのタイへの送り出しでしたので、果たして JFSA の古着が現地で販売できるのか…不安を抱えながらの積み込みでした。特に女性物衣類（パキスタンでは需要が低い半・長袖ブラウス・カットソー）は、タイでは需要が見込めると聞いてはいましたが、実際に品物が売れるまでは期待よりも心配が大きい気持ちでした。

その後、タイへの事務局派遣を通して現地での需要や JFSA の品物の評価を直に知ることができました（詳細はタイ派遣報告参照）。今回の積み込みでは前回の結果をもとに、ある程度、現地の需要に合わせた品目の選択をすることができました。

今後さらに現地への派遣や、PJC カユームさん、タイの卸業者アリー氏との情報交換を重ね、出された古着ができるだけ利益に繋がるかたちをつくり上げていきたいと思います。

積み込み終了後の集合写真

コンテナの中の積み込み作業

ボランティアお手製の
パキスタンカレー

# 一枚の服ができるまで。（後編）

kar-khana 事業担当　佐々木　貴弘

前号では、縫製工房にサンプルを作ってもらって確認するという工程まで（１．オーダーした服などの元ネタを用意する　２．元サンプルをパキスタンの縫製工房に送って、サンプルを作ってもらう　３．出来上がったサンプルを確認する）をご紹介させていただきました。今号ではその後の作成から納品までを紹介したいと思います。

## ４．生地や枚数を決定して正式なオーダーをかける

ここで初めて生地やボタンなどのパーツ類を決定します。生地を一から作るとなると生地メーカーの指定する長さを買わなければいけません。生地によっては何千メートルと指定されることもあります。一般的なシャツを作る場合は大体３メートル強の生地を使用します。生地を多く使う服であればその分、１枚当たりの値段が上がります。残布を使用したら作る枚数は抑えられる。この生地ならあの服でも相性が良いだろうから使いまわすことができる。内容によっては担当者に生地市場に出向いてもらって、イメージに沿った生地（素材や柄）を探してもらいます。このほかにも納期や金額などをいったんすべて並べて、まるでパズルを組み合わせるように、その時の最良の条件を洗い出してから本オーダーをします。

## ５．本オーダーから納品まで

生産する枚数で変わってきますが、本オーダーをかけてから商品が日本に到着するまでは長くて半年程度かかります（納期にゆとりをもって注文いただけると助かります）。

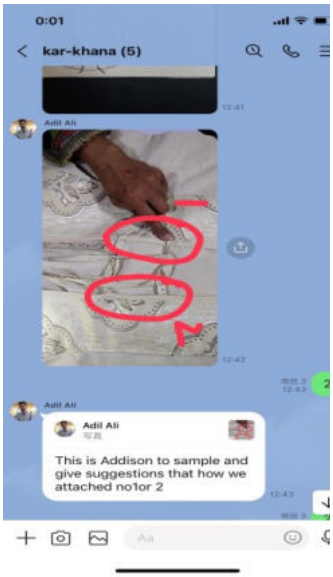
オーダーした後も安心できるわけではありません。作業工程の確認、トラブルや遅れが生じていないかの確認は随時行います。商品が完成するまでの間の交通整理をするイメージです。完成したものは現地から写真が送られてくるので、直しが必要な場合は指示をして直してもらいます。

出来上がった商品が、航空便の出荷に十分な重さに達したら出荷指示を出します。この後無事に日本に到着です。

２号にわたり商品が日本へ到着するまでの流れをご紹介させていただきました。

オーダーに関するお問い合わせは　千葉センター依知川 または 東葛センター佐々木までご連絡ください。お待ちしております！！

市場で探してもらった生地とカディの織生地を組み合わせて作ったオーダー品




日本・パキスタンそれぞれの担当者がはいったラインングループ内でのオーダーについてのやり取り

kar-khana

# 「自己紹介」

東葛センター担当事務局　田邉 航太郎

「バザールがやりたいです」

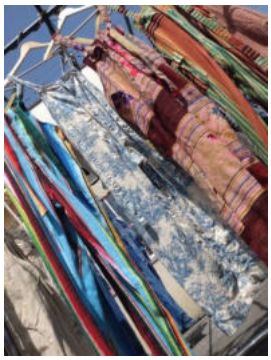
その声は２０２３年に入って間もなくスタッフから上がりました。とてもうれしいことでした。「そろそろ自粛をしないで大丈夫だろうから以前と同じようにやった方が良いんじゃないですか」という周囲からの視線をうかがった進言ではなく「楽しいことを我慢していたけどもう良いですよね」という希望の許可を求めるような言葉だったからです。

この３年間は多くの人たちが行動制限の中で我慢をしてきました。もちろん能動的ではなく、仕方なくです。制限の中でできることを探して、結果につながるよう努めてきました。東葛センターでの収益事業、輸入古着販売は幸い制限の少ないものでした。パキスタンに直接行っての買付作業はできませんでしたが、卸業者ワリー氏の協力により滞りなく進めることができました。結果として収益を大きく伸ばすことにもなりました。

また、それらの輸入古着を日本の小売業者へ卸売販売することを通じて、同様に海外に買い付けに行けない事業者を微力ながら支えるだけでなく、取引を通じた交流からお互いを良く知る機会となりました。このようにうまくいったところもありましたが、反対にうまくいかなかったところもありました。人手不足です。仕事は増えましたが、人を増やせませんでした。制限の中で新たに人と知り合う機会が減ったように思います。

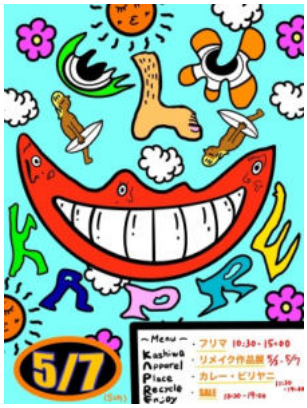
そんな中、バザールをやるということを通じて、自分たちの様子を多くの人たちに伝え、そこに参加したいという人を募るのはとても良い手だと思いました。今できる、自分たちが楽しく前向きになれることをやって、それに魅力を感じてもらえるように取り組みたいと思います。

様々な生地で作ったジャケット。ワリー氏からリメイク用の素材を協力してもらうことも。



様々な生地で作ったオーバーオール。デザインの基になったのはヴィンテージのミリタリーアイテム。

パッチワークデニム生地で作ったオーバーオール。こちらは廃棄予定だったものを再利用しています。




東葛センターバザールのポスター

# 「リユースでつなぐ」

国内事業担当事務局　大橋　紀子

ＪＦＳＡの回収期間中はお問い合わせをたくさんいただきます。その中で『回収している品目の中に、新品のみ受け付けているもの、中古品も可のものがあるのはなぜでしょうか？』という質問が印象に残りました。

品目によって違う理由は、現在行なっているＪＦＳＡの事業の中で活用できるものを集めているからです。新品のもの（新品下着、新品エプロン、新品靴下、毛糸など）は主に国内販売用、海外輸出販売用として集めている中古のもの（中古毛布、中古タオル、中古下着など）、どちらでも販売するもの（衣類全般、バッグ、靴など）の、大きくは３種類に分けられ、それぞれの場で販売をしています。

千葉店の活動計画として、国内リユースの促進のために幅広い客層の集客を目指すことを掲げています。昨年度１年間では、のべ購入者数２４，６００人、国内回収品をおよそ６２，０００点販売しました。平均すると１日あたり80人のお客さんに２００点購入していただいたことになります。店の特徴の一つとして挙げられるのが、新品の日用品類（下着、タオル、ハンカチ、靴下、エプロン、パジャマ、など）の品揃えが豊富でそれを目当てに来るお客さんがいること、その方がお子さんを連れて来たり親御さんを連れて来たりと、３世代でのご来店があることです。そして３世代でご来店いただいた際には、三者三様それぞれが楽しめる要素があって、幅広い客層につながっています。

「実家のものを片付けています。何十年も前に買った服で、綺麗だけれどもデザインが古いのですが大丈夫ですか？」という質問もよくいただきます。「受付品目や状態（シミや傷みのあるものは不可）での制限はありますが、デザインは問いません」とお答えしています。幅広い客層を目指すということは、品揃えの幅の広さも必要です。押入れに眠っていたものも、言い方を変えれば、**昭和レトロ**や**ジャパニーズビンテージ**などと呼ばれて希少価値があるものもあり、古着という一点ものの面白さを求めに来るお客さんに人気があります。店内では、ブランドコーナーを作ったり、５００円均一コーナーを作ったりと、集まる商品構成やお客さんのニーズに合わせて売り場を作っています。

会員・支援メンバーの方、回収に参加して下さる方の多くは、ＪＦＳＡの活動の場所やお店はどんな所だろうと、想像はしていただいているかと思いますが、実際に足を運べる方はわずかだと思います。国内リユースを進める場として、出していただいた品がまた次の方へと繋がっていく場として、お店からの発信を今後もていねいにしていきます。お近くにお越しの際は、ぜひ千葉店・柏店にお立ち寄り下さい！

３月にリニューアルした毛糸売り場。常連さんに人気。

色とりどり並んでいる毛糸を見て、これから編み物を始めてみようと購入される方もいます。毎月第２土曜日に行なっている「軒先市」では、毛糸詰め放題も開催中♪

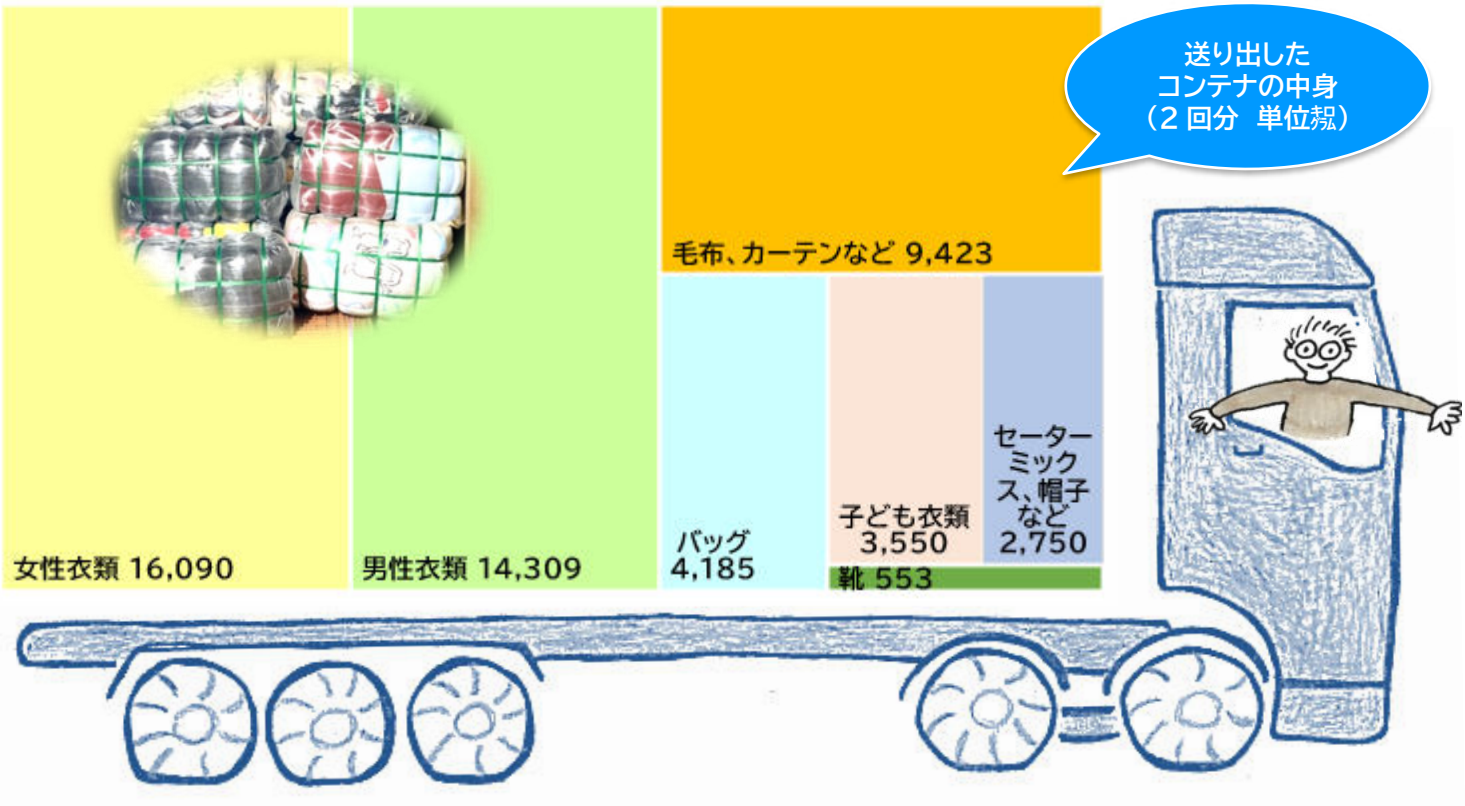


JFSA 千葉センター／CHARKHA BAZAAR（チャルカバザール）営業時間：10時30分～19時（木曜定休）
千葉県千葉市中央区都町３－１４－１０　　電話　０５０－３７４６－８６８４

# JFSAのリユース

“今あるものを大事に使い、自分で
使えないときは
他の人に使ってもらう”
それをみなさんの参加する事業として行ない、
スラムの子どもたちの学ぶ機会につなげます。

2023年2月9日　第80回送り出し　25ﾄﾝ255㌔
2023年4月6日　第81回送り出し　25ﾄﾝ605㌔　　合計50トン860㌔




## ■□2022 年度（2022 年 10 月～2023 年9月）の正会員・支援メンバーを募集しています

NPO 法人 JFSA の会員は次の2種類です。

1.　会員（正会員）この法人の目的に賛同して入会した個人または団体

2.　支援メンバー　この法人の目的に賛同し、賛助の意思を持つ個人または団体

【2022年度　正会員　個人：173 名・団体8　支援メンバー　個人：1，174 名・団体8】

会員・支援メンバーの方には、会報（年3回）、古着の回収のお知らせ（年3回）、サポーターグッズ（年1回）をお送りします。正会員の方には総会議案書（年1回）もお届けします。

●年会費（10 月～翌年9月末）

個人：会員 5,000 円　／　支援メンバー2,000 円

団体：会員 50,000 円　／　支援メンバー　10,000 円

●会費振込み口座（郵便振替）

番号：00160-7-444198　口座名：JFSA

※活動への寄付にも同じ口座がご利用できます。

通信欄に「寄付」とお書き添え下さい。

◆JFSA の会報のバックナンバーをご覧いただけます◆

ホームページのトップページ中央

「JFSA のニュースレター（会報）」より

お進みください。ご希望の方には郵送もできます。

◆会報についての感想やご意見をお気軽にお寄せください◆

JFSA までメール・お手紙でお送りください。

jfsa@f3.dion.ne.jp

こちらの QR コードを読み取って

いただくとメール作成画面になります。